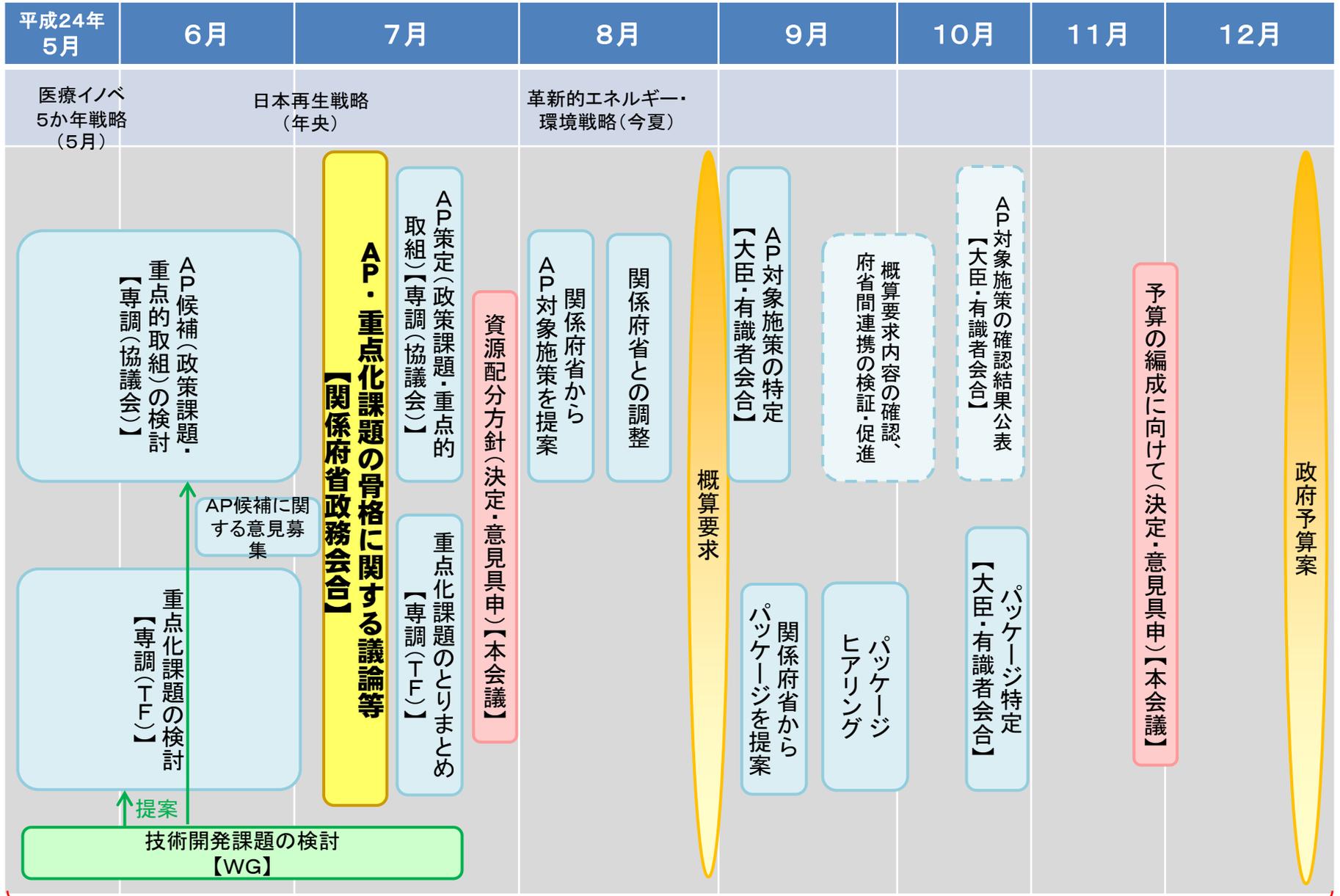


# 平成25年度予算編成プロセス(案)

他の重要戦略

アクションプラン(AP)

重点施策パッケージ



※ 大臣・有識者会合で適宜検討・調整し、専調や本会議に報告

# 平成25年度予算編成における重点化の方向性

平成24年度

最重点

## 科学技術重要施策アクションプラン

- 総合科学技術会議が最も重要と考える施策の方向性を概算要求前に示すことにより、政府全体の科学技術予算の重点化を誘導

重点

## 重点施策パッケージ

- 各省が推進しようとする課題解決に向けた施策パッケージを概算要求後に提案。このうち総合科学技術会議が重点するものを特定し、重点化を誘導

平成25年度

平成24年度と同様、  
2つのツールにより最重点化・重点化を図る。

## 政策課題

- 総合科学技術会議は、復興・再生、グリーンイノベーション、ライフイノベーション、基礎研究・人材育成の各領域が対象とする様々な課題の中から、国の重要政策における位置付けを踏まえつつ、幅広く政策課題を設定する。

## 重点的取組

- 総合科学技術会議は、政策課題を解決するための取組のうち、課題解決に向けて顕著な成果が期待できるものであって、国として最重点で推進すべき取組(取組群)を、重点的取組として設定する。

## 1. アクションプラン全体への意見

- 24年度アクションプランで策定した政策課題・重点的取組について、その後の状況の変化を踏まえたうえで25年度アクションプランを策定すべき(過去のアクションプランの状況も考慮すべき)。
- イノベーションでどの程度の事業規模の産業ができるのか、雇用がどのぐらい多くなるかを目標設定に入れるべき
- グローバルでいかに競争力をつけ、事業を維持するかなどの具体的な目標設定を作るべき。
- 産業界の中のアカデミアに対する資金提供も重要であることから、アクションプランの検討にあたり、サーチする能力を民間の資金に求めることも一つの視点として必要。
- 政策への活用という視点も考えるべき。

## 2. 「個別施策の特定」時の視点への意見

(個別施策の特定作業への当協議会の関与の仕方は検討中)

- アクションプラン対象施策を特定するための基準を策定し、明確にすべき。
  - ・目標設定(いつまでに何をするか)が明確・成果検証可能であること。
  - ・研究成果の活用段階における実施主体が明確であること。
  - ・施策アプローチが具体的・実効的であり、適切なマネジメントが期待できる体制であること。
  - ・施策の内容及び予算額が明確に特定できるものであること。→但し、基礎研究については、活用段階における主体の明確化は難しいのではないかと指摘あり。
- 個別施策が小ぶりのものではなく骨太にし、重複と分散による無駄を排除できるようなアクションプランとすべき。

### 3. イノベーション政策推進専門調査会の取り纏め結果

#### (重点的取組の策定にあたっての視点)

- 期待される効果(経済的効果、社会的効果)が十分に大きく、持続的な成長と社会の発展に貢献するものかどうか
- 期待される効果の発揮に貢献できる取組であるかどうか(特に研究成果の実用化までの段階を見通した実施主体候補等が明確に示されているか)
- 当該分野の国際的位置付け(政策上の位置付け、技術競争力の優位性等)を把握した上で、我が国として重点的に推進すべきものと言えるかどうか
- 緊急性が高い取組かどうか
- 国と民間等との役割分担を考慮した上で、国が主導して実施する必要性が高いものであるか

#### (平成24年度アクションプランで策定した重点的取組を見直す視点)

- 他に有効な取組が出てきていないか(そのまま継続する必要性がなくなっていないか)
- 継続したとして、成果が出せない可能性が高まっていないか
- 順調に推移し、もはや後押しを必要としない段階になっていないか

以上の取り纏め結果を踏まえ、当協議会に固有の視点を追加することを検討

#### <参考> H24AP対象施策を特定した時の基準

- ・重点的取組における位置付けが適切か
- ・時間軸とともに達成目標が明確にされているか
- ・研究開発の革新性、国際的優位性等は明確か
- ・実施体制、関係府省との連携は適切か